

事務事業名		地域資源活用交流促進事業		<input type="checkbox"/> 実施計画登載事業		<input type="checkbox"/> 総合戦略登載事業			
政策体系	政策名	01 豊かな市民生活を実現する産業の振興		事業期間 <input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (開始 27 年度～)  <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 【計画期間】 年度～年度 ※全体計画欄の総投入量を記入		予算科目			
	施策名	02 地域特性を生かした農林業の振興				会計	款	項	目
	基本事業名	02 農業経営の安定支援				01	02	01	06
根拠法令		岩手県補助金交付規則、地域経営推進費交付要綱				事務事業区分			
所属	部課名	企画政策部企画調整課				<input checked="" type="radio"/> A 政策事業 B 施設整備 <input type="radio"/> C 施設管理 D 補助金等 <input type="radio"/> E 一般(A～D以外)			
	課長名	新沼 徹							
	係名	企画係	電話	0192-27-3111					
	担当者	菊地 正展	内線	229					
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)				全体計画(※期間限定複数年度のみ)					
・都市部の交流のある大学の学生及び市内の小中学生と連携し、地域資源である椿を利用した体験活動の場を提供し、地元企業、農業関係者との交流を図る。市民と一緒に様々な活動を実施しながら、郷土の魅力を感じ、また、感じた魅力をさらに他の市民に伝えてもらうことで、市民が故郷の魅力を再発見し、さらには、当市の地域活性化を図る。  ・本事業(県補助金)に係る主な手続は以下のとおり。 ①事業申請(市→振興局) ②事業採択(振興局→市) ③交付申請書の提出(市→振興局) ④交付決定(振興局→市) ⑤補助金請求書の提出 ⑥完了検査への対応				総投入量(千円) 事業費 財源内訳 国庫支出金 都道府県支出金 地方債 その他 一般財源 事業費計(A) 0 人件費 正規職員従事人数 延べ業務時間 人件費計(B) 0 トータルコスト(A)+(B) 0					

1 現状把握の部(DO)

① 手段(主な活動)		⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	
前年度実績(前年度に行った主な活動) ・市内に自生しているヤブツバキの分布状況調査の実施 ・椿に特化した観光ルートの開発 ・体験学習用に椿油等搾油機を購入、利用 今年度計画(今年度に計画している主な活動) ・地域資源である椿を活用した商品開発 ・椿をテーマにした体験学習 ・都市部で交流のある大学の学生と市内小中学生との椿をテーマにした交流活動		名称 ア 体験活動の実施回数 回 イ ウ	
② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等		⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)	
事業に参加した市内小学校、中学校、大学等		名称 カ 事業に参加した市内小中学校、大学 校 キ ク	
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)	
地域資源である椿を介した交流が図られる。		名称 サ 当該事業による交流人数(延べ) 人 シ ス	
④ 結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)			
・地域の魅力を再発見する。 ・地域資源である椿の利活用が図られる。			

② 総事業費・指標等の推移		年度	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(目標)	30年度(目標)	31年度(目標)	32年度(目標)
投入量	事業費	国庫支出金	千円					
		都道府県支出金	千円	700	4,700	2,333		
		地方債	千円					
		その他	千円					
		一般財源	千円	350	2,350	1,167		
	事業費計(A)		千円	1,050	7,050	3,500	0	0
	人件費	正規職員従事人数	人	2	2	2		
		延べ業務時間	時間	200	200	200		
		人件費計(B)	千円	800	800	800	0	0
	トータルコスト(A)+(B)		千円	1,850	7,850	4,300	0	0
⑤ 活動指標	ア	回	8	24	12			
	イ							
	ウ							
⑥ 対象指標	カ	校	5	8	6			
	キ							
	ク							
⑦ 成果指標	サ	人	160	557	240			
	シ							
	ス							

事務事業ID	1758	事務事業名	地域資源活用交流促進事業
--------	------	-------	--------------

<b>(3) 事務事業の環境変化・住民意見等</b>	
① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？	豊かな自然のもと、山や里には未利用・低利用の資源が多く眠っており、近年こうした資源を活用した活動が、民間を中心に少しずつ芽を出している状況にあった。そんな中「椿」をテーマに、交流のある都市部の学生や市内の小中高生に地域資源の魅力を発見してもらい、その魅力を市民に伝え、当市の地域活性化に資することを目的に事業に取り組んだもの。
② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは後期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？	平成27年度から、市の花・椿を利活用し、地域のブランド向上やコミュニティの再構築につなげようと、総務省の復興支援員制度を活用し、椿利活用推進員を新たに採用した。 また、当市における椿の里づくりのため「椿の里づくり行動指針」を新たに策定し、その推進を図ることとしている。
③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？	・当該事業に協力した学生からは、当市の様々な地域性を知る貴重な経験になった等の声が寄せられている。 ・当該事業に協力した市民からは、自分たちが採集に関与した椿の実を活用した椿油等の商品化を望む声が寄せられている。

**2 評価の部(SEE) \* 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価**

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている ⇒【理由】	地域資源である椿を活用した取組は、地域特性を生かした農林業の振興に結びつく。
	② 公共関与の妥当性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である ⇒【理由】	市民には「椿の里」としての認識、また、椿を活用したいという意識はあるものの、個別かつ短期的な取組にとどまっている。椿を地域資源ととらえ、椿を利活用する枠組みを構築するため、市が関与する必要がある。
	③ 対象・意図の妥当性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 適切である ⇒【理由】	地域資源である椿を活用した体験、交流等により、地域の魅力を再発見するものであり、対象・意図とも妥当である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】	取組を始めたばかりであり、地元で関わっていない小中学校や地域も多いことから、成果向上の余地がある。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響	<input type="checkbox"/> 影響無 ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 影響有 ⇒【その内容】	当補助金については、予め県から市に予算配分額が示されているため、事業担当課からの要望を調整する必要があること、また、一連の手続きについて、円滑な事務処理上、市として一括的な対応を求められていることなどから、本事業を廃止・休止することはできない。
効率性 評価	⑥ 事業費の削減余地	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】	取組を進める中で、関係団体との連携や取組む内容により事業費の削減は可能と考えられる。
	⑦ 人件費(延べ業務時間)の削減余地	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】	取組を進める中で、関係団体との連携が深まり、事業内容が工夫できること等により、業務時間の削減が図られる可能性がある。
公平性 評価	⑧ 受益機会・費用負担の適正化余地	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】	椿をテーマとした体験学習をはじめ、取り組むにあたっては広く希望を募っており、公平・公正である。

**3 今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)**

(1) 改革改善の方向性	(2) 改革・改善による期待成果																		
1 現状維持 ② 改革改善(縮小・統合含む) → 3 終了・廃止・休止	左記(1)の改革改善を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (終了・廃止・休止の場合は記入不要)																		
(3) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等	<table border="1"> <tr> <td></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td>●</td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>		コスト				削減	維持	増加	成果	向上		●	維持		×	低下	×	×
	コスト																		
	削減	維持	増加																
成果	向上		●																
	維持		×																
	低下	×	×																
椿を通じて地域を知る取組をさらに対象を広げて行うとともに、椿を活用した産業化に向けた取組も行う。また、椿利活用推進員との連携のもと、効果的かつ効率的に実施できるよう努める。 地域資源活用交流促進事業として、県の地域経営推進費事業を活用できるのは平成29年度までであり、市内小中学校の希望校で実施している椿学習プログラムの自走化に向けた取組を行う必要がある。																			

**4 課長等意見**

(1) 今後の方向性	(2) 全体総括・今後の改革改善の内容
1 現状維持 ② 改革改善(縮小・統合含む) 3 終了・廃止・休止	大学生や小中学生の参画目的の明確化とそうした方々に対する事業成果の明示が大切である。 また、県補助金活用後の事業展開について、効果検証を十分踏まえた検討・協議により、成果の伸長を目指す必要がある。